

前	奏	黙想	祈	禱	
招	詞	詩編 50:1	讚	美	歌 515 十字架の血に
讚	美	歌 9	献	金	
祈	禱	ちからの主を	讚	詠	547 いまささぐるそなえものを
信仰告白	使徒信条	566	黙	禱	
聖	書	申命記 21:22~23	主の祈り		564
		ガラテヤの信徒への手紙 3:13	頌	栄	544 あまつみたみも
讚	美	歌 252	祝	禱	
説	教	『バカげた愛』	後	奏	

「ある人が死刑に当たる罪を犯して処刑され、あなたがその人を木にかければ、死体を木にかけたまま夜を過ごすことなく、必ずその日のうちに埋めねばならない。木にかけられた死体は、神に呪われたものだからである。あなたは、あなたの神、主が嗣業として与えられる土地を汚してはならない(申命 21:22~23)」。死体を木にかけるとは、見せしめのためなのか。現代日本の死刑制度は逆。極刑の諸々が秘密であるために、犯罪の抑止効果は怪しく、反対に死刑廃止の機運も高まらない。

「木にかけられた死体」は神に呪われたものだから「必ずその日の内に埋める」。そのまま放っておけば「嗣業として与えられた土地」を汚すことになるから、日没前にさっさと片づけておけ、というわけだ。モーセの後継者ヨシュアが殲滅させたカナンの先住民「アイ(ヨシュア8:25~26)」。その王は木にかけられ(8:29)、実に惨めな死に方をした。ヨシュアは「神の義」を実行したとしても、先住民から見れば悪魔の所業そのもの。しかしこんな侵略行為は、現代人には到底承服しがたい。そしてまた当時でも、こんな木にかけられた所に「救い」があるなど、誰一人として想像すらしなかった。

「キリストは、わたしたちのために呪いとなって、わたしたちの律法の呪いから贖い出してください。〔木にかけられた者は皆呪われている〕と書いてあるから(ガラテヤ3:13)」。イエスは文字通り「木にかけられ(十字架)、私たちのために「呪いとなった」。きれいな別の言い方をすれば、「キリストは～わたしたちを救い出そうとして、御自身をわたしたちの罪のために献げてくださった(1:4)」。

「木にかけられた死体は、神に呪われたもの(申命 21:23)」。だが「キリストは呪いとなった。わたしたちのために(ガラテヤ3:13)」。神に呪われるほどの状態になった。この事はイエスの死にざまにも生々しく現れている。あの時イエスは虫の息で、大声で叫んだ。「エローイ…、エローイ…、レマ、…サバクタニ(マルコ15:34)」、「わが神、わが神、なぜ俺を見捨てるのか」と。神の子とはいえ生身の人間。その身で「呪いとなる(ガラテヤ3:13)」ことは、体も、心も、とてつもない苦痛を伴う事であった。御子はなぜ、神はなぜ、それほどまでに苦しまれるのか。私たちを「律法の呪い」から贖い出すために、だ。

人間が囚われている「律法の呪い」。旧約聖書の律法に限ったことではない。人間が考え、主張し、疑わない「義さ」そのものが「律法の呪い」なのだ。ヨシュアのように神の側に立ち、先住民を「木にかけられる(ヨシュア8:29)」ことは、義だか悪だか混乱するが「律法の呪い」だと思う。かといって、先住民のように殺される側に義があるわけでもない。いずれにせよ「義さ」を言い募って、自らの罪に向かわない者は呪いの内にある。人間はキリストによって「律法の呪い」から贖い出され(ガラテヤ3:13)、キリストの命と引き換えに、自分の罪を自覚する。「正しい者はいない。一人もいない(ロマ3:10)」のだ。

「キリストは、わたしたちのために呪いとなった(ガラテヤ3:13)」。これはもう、おそろしくバカげた「神の愛」としか言いようがない。だが、贖い出されて己が罪を胸に覚えた者は、神のバカげた愛をこの身に受けて現実を啓き、福音を分かち、キリストと共に永遠へ踏み込む。中には「イエス・キリスト、それも十字架につけられたキリスト以外、何も知るまいと心に決める(1コリント2:2)」者も現れるだろう。

人間の義は律法の呪い 難解なことではない 他者の悪を言い立てるほどに 律法の呪いは現れる  
義人のふりする罪人は分る 罪人のふりする偽義人は分りにくい 人間がつける幾重ものマスク

来たる 11/2(日)礼拝直後に臨時教会総会を開きます(30分程度)。9/22(月)10:00~11:30 八ヶ岳教会の甲府聖研(YMCA)。牧師の動き:9/22 午後分区教師会(南甲府教会)。9/28(日)午後、分区委員会。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。